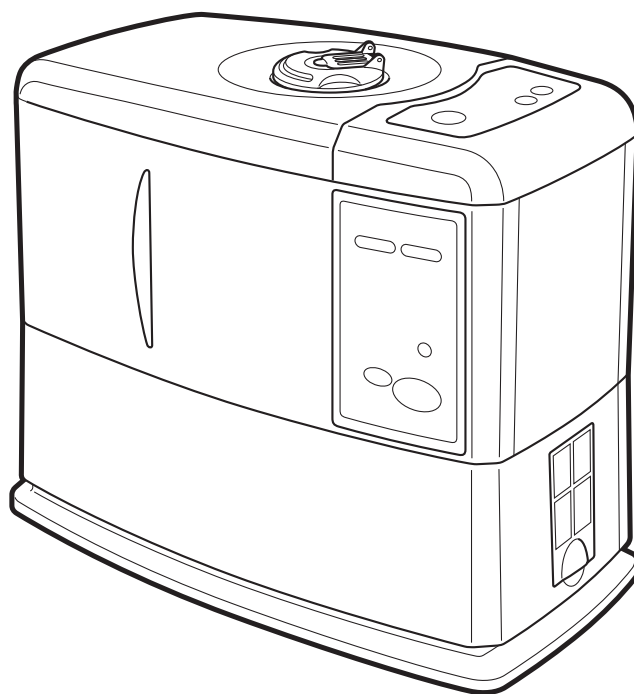
# トヨトミ
# 加熱超音波式
# ハイブリッド加湿器

型式 **THV-A41**
ティー　エッチ　ブイ　エー

# 取扱説明書
〈保証書付〉

このたびはトヨトミハイブリッド加湿器をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、取扱いのわからないときや、不具合が生じたときお役立てください。

C07-2　株式会社トヨトミ　4448000701

# もくじ

# 安全のために必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

**■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

| | |
|---|---|
| ⚠警告（WARNING） | **取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。** |
| ⚠注意（CAUTION） | **取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。** |

★「**⚠注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

★説明文中の **お願い** 事項は、本機を誤りなく使用していただくための注意事項が記載してありますので、お守りください。

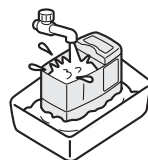
**本文中や本体に使われている図記号の意味は、次のとおりです。**

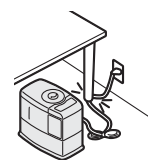
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止  ぬれ手禁止  電源プラグを抜く  指示

## ⚠警告（WARNING）

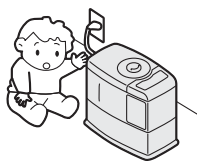
**★修理・分解・改造はしない。**
●火災・感電の原因になります。
修理はお買上げの販売店または「トヨトミお客様相談窓口」へご連絡ください。

分解禁止

**★本体を水につけない、水をかけない、直接水を入れない。**
●エアーフィルター・コネクタ差込口（インレット）・フードから水が回りこんで火災・感電・ショートの原因になります。

水ぬれ禁止

**★電源コードを傷つけない。**
●加工したり束ねたりしない、引っ張らない、上に物をのせない。
破損して、火災・感電の原因になります。

禁止

**★幼児の手の届く所で使わない。**
●感電・やけど・部品を誤飲する原因になります。

禁止

**★濡れた手で電源プラグを抜差ししない。**
●感電の原因になります。

ぬれ手禁止

**★本体内部のお手入れに下記の洗浄剤を使用しない。**
●塩素系・酸性・アルカリ性・加湿器用洗浄剤（クエン酸等）
本体内部に洗浄剤が残り、有毒ガス発生や水漏れの原因になります。

禁止

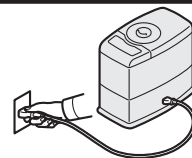
**★霧吹出口、吸気口（エアフィルター）に異物を入れない。**
●感電・やけどの原因になります。

禁止

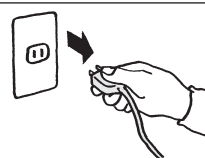
# ⚠警告（WARNING）

**★電源プラグは根元まで確実に差込む。**

●電源コードや電源プラグが異常に発熱し溶けたり変形して感電・ショート・発火の原因になります。
傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使わないでください。

確認して差込む

**★お手入れは電源プラグを抜いてからおこなう。**

●感電の原因になります。

抜く

**★定期的に電源プラグ・コネクタ差込口（インレット）のほこりを取る。**

●ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

ほこりを取る

**★排水するときは、トップパネル、タンク、フードをはずし、操作部・表示部（ランプ）側を必ず上にして排水する。**

●手順と排水方向を誤ると、水が回りこんで火災・感電・ショートの原因になります。

排水方向から

**★異常時（水漏れ、コゲくさい臭いなど）は運転を停止して電源プラグを抜く。**

●異常のまま運転を続けると火災・感電の原因になります。
運転を停止して、お買上げの販売店または「トヨトミお客様相談窓口一覧」へご連絡ください。

抜く

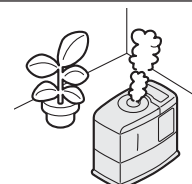
**★AC100V、定格15A以上のコンセントを単独で使用する。**

●ＡＣ100Ｖ以外、または他の器具と併用すると火災・感電の原因になります。

AC100V 15A以上

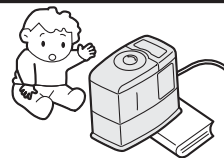
**★一般家庭の居室以外で使わない。**

●特に温室など高湿度で連続使用すると、器具の寿命が短くなったり感電・火災のおそれがあります。
また、食品・動植物・楽器・美術品等の保存などの特殊用途に使用しますと、加湿器自体ならびにこれらの品物の品質低下の原因になります。

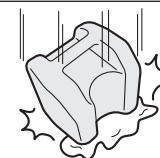
禁止

# ⚠注意（CAUTION）

**★不安定な場所に置かない。**

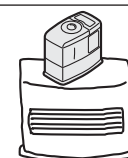
●転倒するとけがや故障の原因になります。

設置禁止

**★落としたタンク・本体を使わない。**

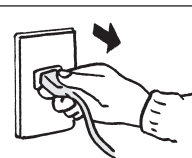
●そのまま使うと破損箇所から水漏れしてショート・感電・発火の原因になります。
お買上げの販売店または「トヨトミお客様相談窓口」へご連絡ください。

使用禁止

**★暖房機・テレビなどの電化製品や、熱に弱いテーブルや棚などの上に置かない。**

●転倒すると感電・ショートの原因になります。また本体底面の熱によりテーブルや棚自体もしくは表面の塗装（ニスやラッカーなど）の変形・変色の原因になります。

設置禁止

**★電源プラグを持って抜く。**

●コードをもって抜くと芯線が破損してショート・感電・発火の原因になります。

持つ

# ⚠注意（CAUTION）

**★タンクの水は毎日新しい水道水と入れかえ、本体内部は常に清潔を保つよう定期的に掃除する。**
●掃除せずにお使いになると、汚れや水あかにより、カビや雑菌が繁殖し悪臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し、健康によくないことがあります。
この場合は医師に相談してください。

指示

**★使用中や使用直後は、持ち運んだり、お手入れをしない。**
●やけどの原因になります。

禁止

**★水は必ず水道水を使用し､汚れた水やお湯､洗剤などは入れない。水に薬品・香料・精油などを入れない。**
●健康を害することや、器具の故障や変形の原因になります。

禁止

**★タンク内にアロマオイルを入れない。**
●タンクが変形、破損して水漏れしたり、器具の故障の原因になります。

禁止

**★電源プラグは、ほこりや汚れが付着していないか確認し、根元まで確実に差し込む。**
●ほこりや汚れが付着したり､ガタつきで接続が不完全な場合は異常に発熱し電源プラグが溶けたり変形して感電や火災の原因になります。

指示

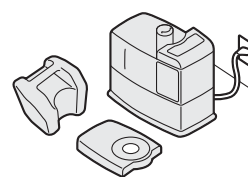
**★電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。**
●電源コードや電源プラグが異常に発熱し溶けたり変形して感電・ショート・発火の原因になります。

禁止

**★電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしない。**
●電源コードが破損する原因になります。傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

**★タンクやフードや吹出口をはずしたまま、電源を入れない。**
●水が飛び散ったり､水柱に手を触れると痛みを感じたりして危険です。
**★水がないままや、横転、逆さにしたままで電源を入れない。また、電源を入れたまま横転や水を捨てない。**
●振動子がこわれ、故障の原因になります。

禁止

**★外出するとき、使用しないとき、保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**
●けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

抜く

**★給水は、必ずタンクに給水する。水そう部に直接給水しない。**
●送風口等に水滴が入ったりして、漏電・感電のおそれがあります。

禁止

**★水を補給するためにタンクをはずすときは、必ず「電源スイッチ」を「OFF」にする。**
●送風口に水滴が入ったりして、故障の原因になります。

指示

# 使用上のご注意とお願い

**★直射日光のあたるところや暖房器具の近くに置かない。**
●変形・変質や故障の原因になります。

**★本体の上に物をのせたり、乗ったりしない。**
●転倒による本体の破損・故障の原因になります。

**★本体をさかさまにしない。**
●故障の原因になります。

**★吸込口(エアフィルター)・吹出口をふさがず、室内の空気がよく循環する場所に置く。**
●性能低下や故障の原因になります。

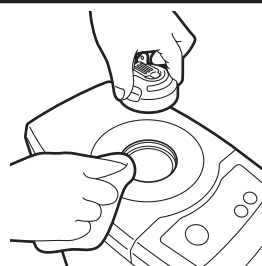
**★移動するときは、傾けたり、ゆすったりしない。**
●水がこぼれます。
●水そう内の水量が増えすぎて、加湿しにくくなります。

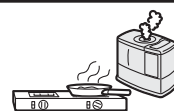
**★凍結に気をつける。**
●凍結したまま使うと、故障の原因になります。
凍結のおそれのあるときは、タンクの水を捨ててください。

**★窓や冷たい壁からは、できるだけ離して風通しの良い場所に置く。**
●窓や冷たい壁に霧がかかりますと、水滴となって窓や壁、床につくことがあり、カビなどが発生することがあります。風通しの良い場所で使用してください。

**★加湿された風を直接家具・電気製品・壁・カーテンなどに当てない。**
●家具や壁にシミが付いたり、故障・変形の原因になります。

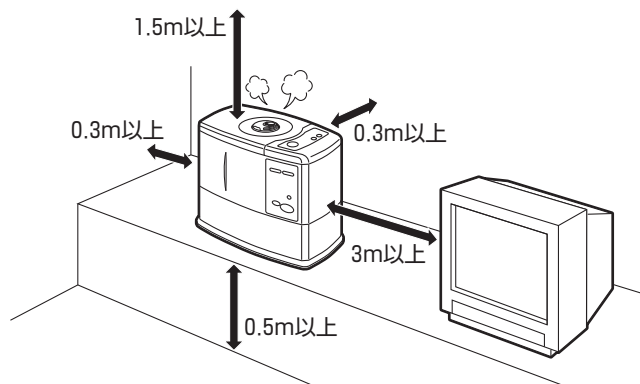
# アロマオイルについて

アロマポット・アロマキャップ・スポンジ以外（吹出口をはめ込む本体側を含む）にアロマオイルが付着した時は、きれいに拭き取ってください。変色・変形・固着の原因になることがあります。（アロマポットにまだアロマオイルが入っている時は吹出口をタンクから取りはずしてから給水などの作業をしてください。）
本体内部までアロマオイルが入ったおそれがある時は、本体内部の水道水を捨てて、タンクキャップや本体内部の振動子と水そう部を洗浄してください。
（P11 **日常の点検・手入れ**　P13 **保管のしかた** 参照）
**また、タンク内には絶対にアロマオイルを入れないでください。**
**タンクの変形や破損して水漏れしたり、器具の故障の原因になります。**

# 炎色反応について

ガス器具の近くでご使用になりますと、ガスの炎(通常は青色)がだいだい色になることがあります。これは水中に溶けているカルシウムなどが加熱されるときに特有の光を発する現象なので心配ありません。

# 白い粉について

お使いになる水によっては、水中に溶解しているカルシウムなどが白い粉となって、テレビや家具などに付着することがあります。
付着したときは、やわらかい布などで早めにふきとってください。

# 設置場所について

## 設置場所の基準寸法のめやす

- 図のように、周囲との距離を充分にとる。
  （同じ部屋で加湿器を２台以上使用する場合は、間隔を０.６ｍ以上離す。）
- テレビ・オーディオ等のＡＶ、パソコン機器から３ｍ以上離し、できるだけ別のコンセントを使用する。
  電波の弱い地域では、映像の乱れや雑音が出ることがあります。

## こんな場所には設置しない

**落下物の心配がある場所、凹凸のある場所では使用しない**
不安定な物をのせた棚などの下、凹凸がある不安定な場所では使用しないでください。思わぬ事故や誤作動の原因となります。

**窓や冷たい壁からは、できるだけ離して風通しの良い場所で使用する**
窓や冷たい壁に霧がかかりますと、水滴となって窓や壁、床につくことがあり、カビなどが発生することがあります。風通しの良い場所で使用してください。

**直射日光があたる場所、暖房機の上や近く、温風があたるところ**
変形・変色したり、センサーが誤作動することがあります。また、タンクの圧力が上がり、霧の出かたが少なくなることがあります。

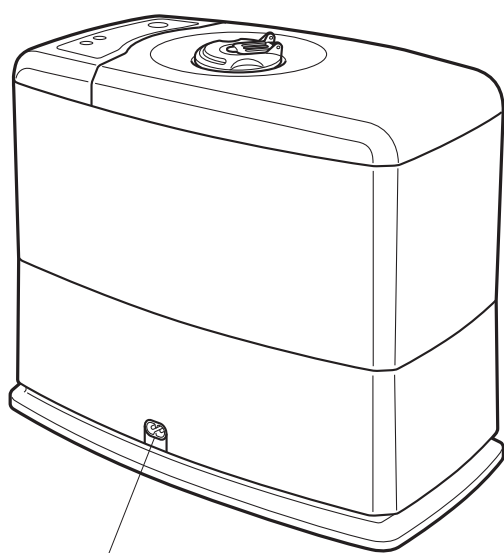
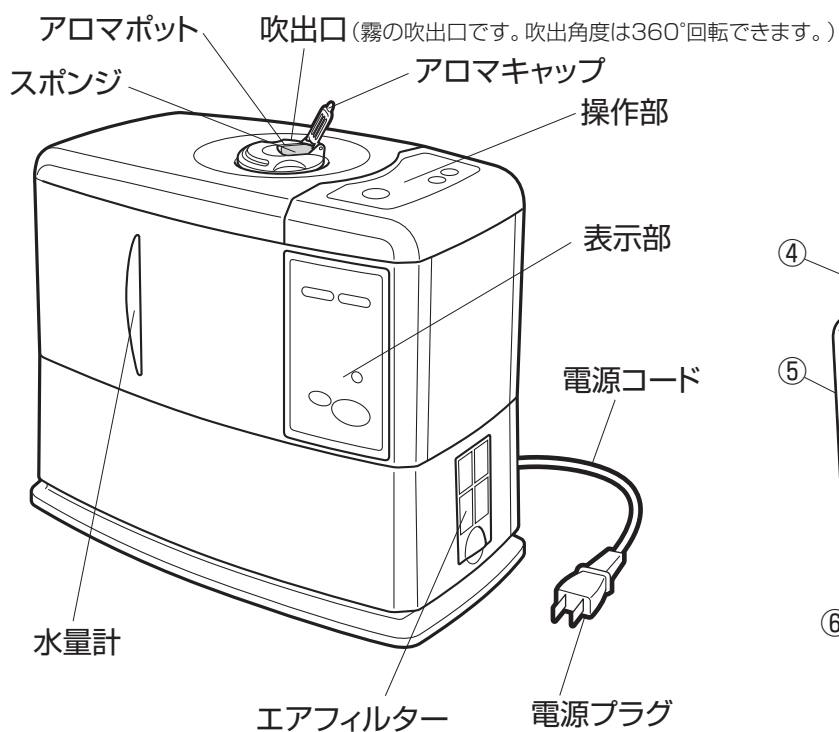
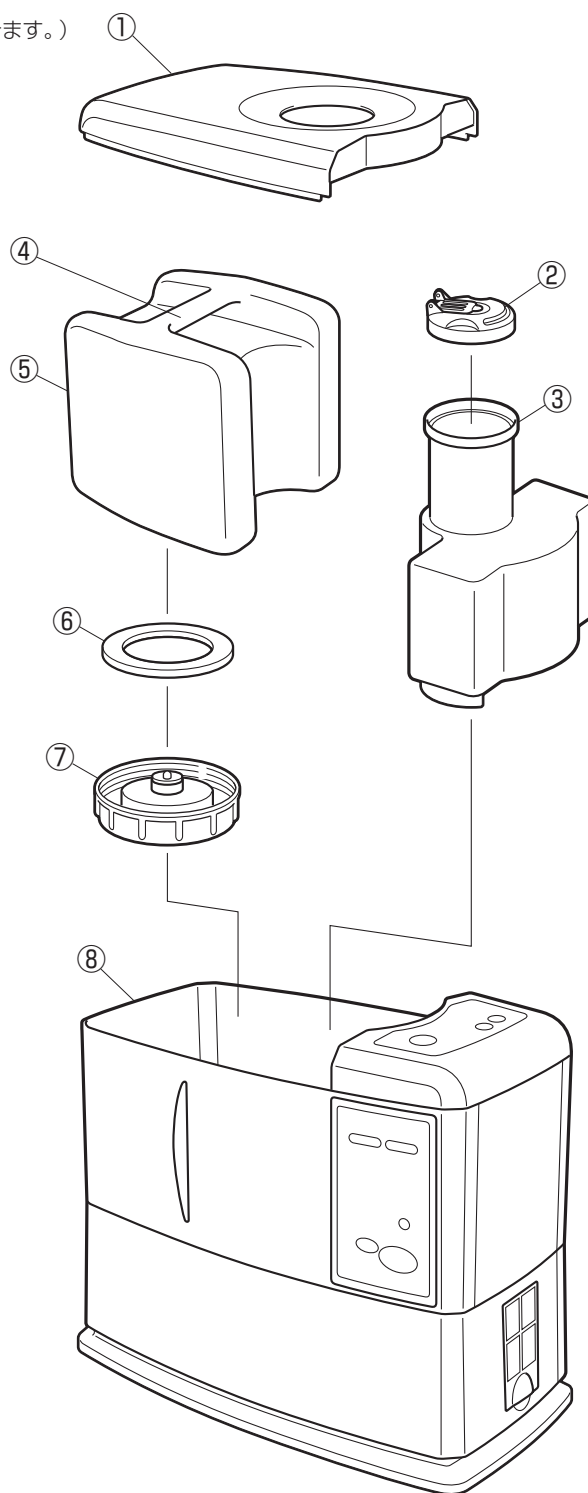
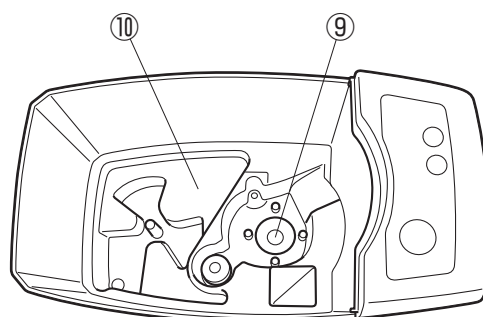
**霧が家具・壁・カーテン・天井・電気製品などに直接あたるところ**
故障したり、家具などにしみが付いたり、変形の原因になります。

**電磁調理器やスピーカーの近くなど、磁気の多いところ**
正常に動作しない場合があります。

**傾斜のあるところや不安定な場所**
本体が傾くと、加湿量が変化したり、給水ランプが点滅することがあります。

**じゅうたん・電気カーペット・ふとんなどの上**
毛足が長いじゅうたんの上や、ふとんの上などに置くと、吸気口がふさがれて霧の出かたが悪くなります。また、内部温度が上昇して水があふれたり、安全装置が誤作動することがあります。

# 各部のなまえ

外観図

構造図

| ① | トップパネル | ⑥ | パッキン |
|---|---|---|---|
| ② | 吹出口 | ⑦ | タンクキャップ |
| ③ | フード | ⑧ | 本体 |
| ④ | タンクとっ手 | ⑨ | 振動子 |
| ⑤ | タンク | ⑩ | 水そう |

# 使用前の準備

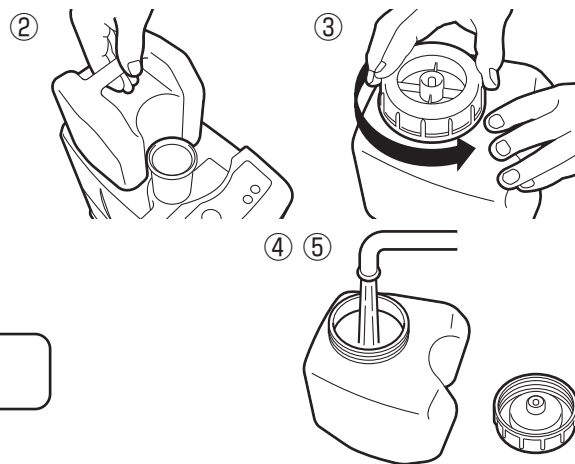
## 1. タンク内の洗浄をします。

| ⚠注意 | 給水は、必ずタンクに給水する。水そう部に直接給水しない。<br>送風口に水滴が入ったりして、漏電・感電のおそれがあります。 |  禁止 |
|---|---|---|

①トップパネルと吹出口をはずします。

**お願い**

アロマキャップを閉めて吹出口をはずしてからタンクをとりだしてください。
開けたまま作業すると、オイルがこぼれ、変色・変形する原因になることがあります。

②タンクを取り出します。
③タンクキャップを左「」に回して取りはずします。
④給水のつど、タンク内を次の順序で洗ってください。
（1）タンクに水道水をタンクの約1／2程度入れてください。
（2）タンクキャップを右「」へ回して、しっかり締め、ふり洗いしてタンク内の汚れを取り除き、水を捨ててください。

**お願い**

洗剤は使用しないでください。霧の量が少なくなります。

## 2. 水道水をタンクに入れてください。

|  | 水は必ず水道水を使用し、汚れた水やお湯、洗剤、ミネラルウォーター、井戸水などは入れない。<br>水に薬品・香料・精油などを入れない。<br>健康を害することや、器具の故障や変形の原因になります。 |  禁止 |
|---|---|---|
| | タンクはゆっくりと入れてください。<br>誤って落とすような入れ方をしますと、タンクに水があるのに給水ランプが点灯することがあります。このようなときは、運転スイッチを「切」にして再び「入」にしてください。 | 禁止 |
| | ★水を補給するためにタンクをはずすときは、必ず「電源スイッチ」を「OFF」にする。<br>●送風口に水滴が入ったりして、故障の原因になります。 |  指示 |

**お願い**

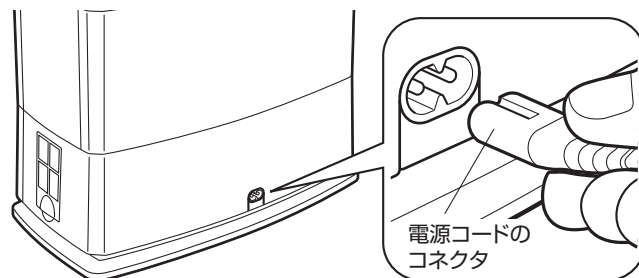
- タンクに水を入れるとき、持ち運ぶときなどに、誤ってタンクを落としたりすると破損します。充分に注意してお取り扱いください。
- 給水のとき、タンクの給水口に水道の蛇口を直接差し込んで給水することはおやめください。タンクが破損することがあります。

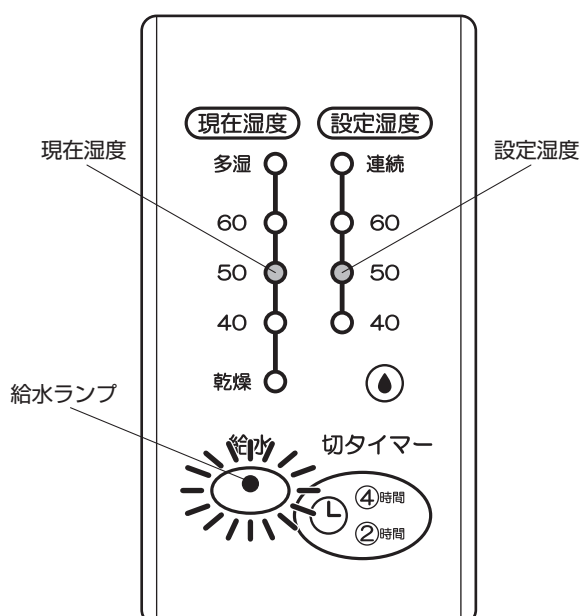
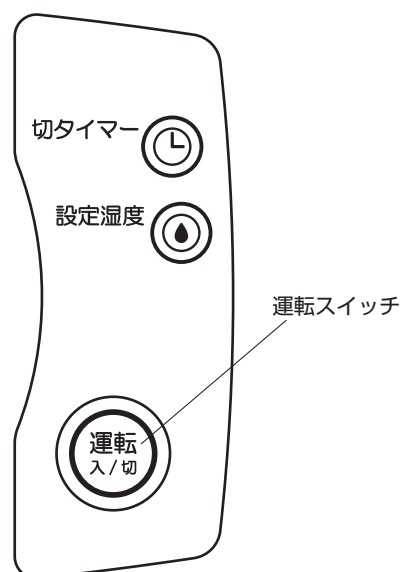
①トップパネルと吹出口をはずし、タンクを取り出します。
②タンクキャップを左「　」に回して取りはずし、水道水を入れます。
③タンクキャップを右「　」に回して、しっかり締め、タンクを本体にセットしてください。
その後、トップパネルと吹出口を元通りセットしてください。

**お願い**

- タンクを本体からはずしたまま、放置しないでください。暖房器具の熱や直射日光で温度が上がると、タンク内の空気がふくらみ、タンクが変形することがあります。
- タンクキャップは確実に締めてください。タンクキャップを斜めに締めたり、ゆるんでいたりすると、水がタンクから簡単にこぼれて、お部屋を汚したり、製品にかかって、感電やショートなどのおそれがあります。

3. 本体背面のコネクタ差込口（インレット）に附属部品の電源コードのコネクタを差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。

●電源プラグを交流100Ｖ定格15Ａ以上の専用コンセントに差し込んでください。

電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、ガタつきのないように刃の根元まで確実に差し込む。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、異常に発熱し電源プラグが溶けたり変形して感電や火災の原因になります。

## 表示部・操作部の見方

### 湿度モニター（%表示で目安です）の見方

**[例] 現在湿度50%の場合**
50の緑ランプが**「点灯」**します。

- **湿度が40%以下になると、「乾燥」の橙ランプが「点灯」します。**
- **湿度が60%以上になると、「多湿」の橙ランプが「点灯」します。**
- **湿度モニターは目安にしてください。**
（湿度計の表示と差が出ることがあります）
同じ室内でも温度差や気流などのため、場所や高さによって湿度が違う場合があります。
また、湿度を感知するセンサーはエアフィルターの奥にあります。加湿の霧がセンサー部付近におりてきていると、正確な湿度を表示できません。その時は、吹出口の方向を調節してください。

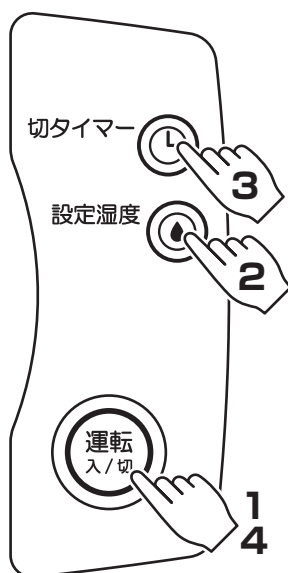
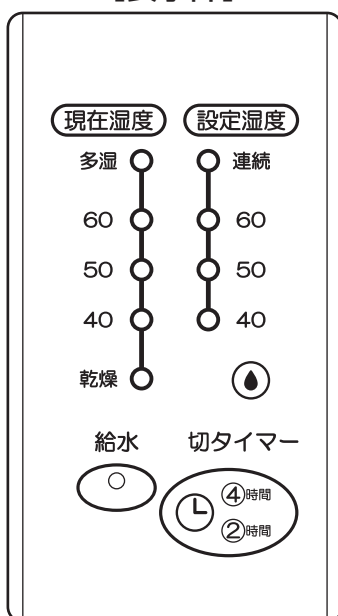
### タンクの水がなくなったとき

**「ピー、ピー、ピー、ピー」**と４回報知音が鳴り、給水ランプ(赤)が**「点滅」**します。

- 運転は自動的に**「停止」**し、**「 給水ランプ」**を除きすべてのランプが**「消灯」**します。
- **続けてお使いになる場合は**
タンクに水を給水し、運転スイッチを１度押しランプを全消灯にした後、もう一度運転スイッチを押すと運転が再開されます。

# 使いかた

［操作部］

［表示部］

## 1 運転スイッチ を押す

●**「現在湿度」**、**「設定湿度」**の各ランプが**「点灯」**します。

●初めて加湿器をお使いになる場合や、電源コードを抜いて再度差し込んだ場合、設定湿度は50を表示します。

●運転時、本体の電気部品から「カチッ」という音がしますが異常ではありません。

●運転スイッチを押したすぐ後は水温程度の霧が出ます。

## 2 設定 を押し、お好みの湿度を設定する

●設定 を押し、設定湿度ランプ（緑）を移動させます。

●**「連続」**にすると湿度に関係なく加湿します。

### 加湿量について

★湿度モニターの現在湿度より設定湿度の方が高いと**「強」**加湿運転をおこないます。
（例：「現在湿度・50％」「設定湿度・60％」の時）

★湿度モニターの現在湿度より設定湿度の方が低い状態がしばらく続くと加湿しません。
（例：「現在湿度・60％」「設定湿度・50％」の時）

★湿度モニターの現在湿度と設定湿度が同じ時は**「弱」**加湿運転と**「停止」**で設定湿度を維持します。

★設定湿度が**「連続」**の時は、湿度モニターの現在湿度が「多湿」の時は**「弱」**加湿運転をおこない、その他の時は**「強」**加湿運転をおこないます。

### ご注意

**「連続」**運転時は、お部屋の湿度に関係なく加湿し続けますので、結露などに充分ご注意ください。
床などを濡らすおそれがあります。

## 3 タイマー運転を使用する

●このタイマーは設定時間が経過すると自動的に運転を停止する**「切」**タイマーです。

●４時間設定をおこないますと、２、４の緑ランプが**「点灯」**し、２時間が経過すると４の緑ランプが**「消灯」**し、さらに２時間が経過すると２の緑ランプも**「消灯」**して、自動停止します。

●タイマー運転をおこなう場合はタンクの残り水量を確認してください。水が少ないとタイマー運転で停止する前に、運転が停止してしまいます。

## 4 運転を停止する

●運転スイッチを押し**「切」**にします。
全てのランプが**「消灯」**して運転を停止します。

●運転が停止しても本体を冷却するために約１分間送風します。

●長期間使用しない場合は送風停止を確認後、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

### お知らせ

●ボタンを押すたびにランプと報知音で運転の状態をお知らせします。

●運転停止後再び運転をするとタイマー以外は停止前の設定状態で運転を始めます。
（電源プラグを抜くと記憶は消えます）

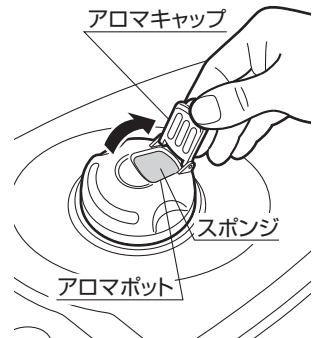
●水温や室温が低いときなどは運転始めの霧の出かたが少ないときがあります。
そのまま20～30分運転すると徐々に多くなります。

●「弱」加湿運転の時は、使用環境（周囲の明るさ、背景の色、室温など）によって、霧が見えにくいことがあります。

## 5 水がなくなったら、タンクに水を補給します

●水がなくなってきますと、フロートスイッチが働いて、吹出口から霧が出なくなります。
運転スイッチを**「切」**にしてから7ページ**「使用前の準備 2項」**を参照して、タンクに水を補給してください。

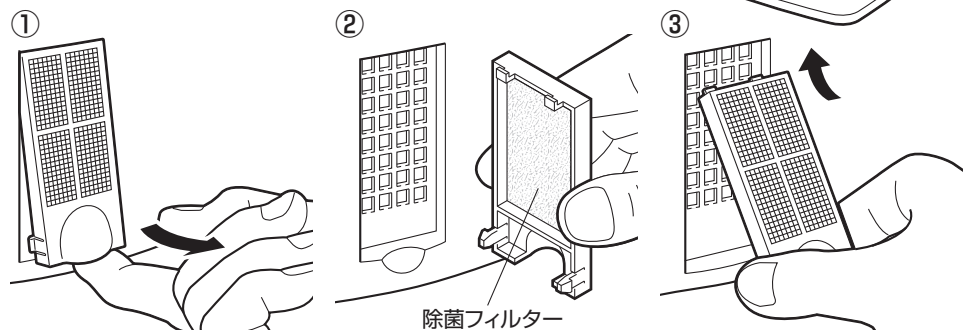
### アロマポットの使いかた(アロマ運転)

**①アロマキャップを開けます。**
芳香用のスポンジをアロマポット内へ入れます。(お買い上げ時はスポンジはアロマポット内に入っています。)
**②アロマオイルを付属のスポイトで3〜5滴を目安に、アロマポット内のスポンジに染込ませます。**

**お願い**

アロマポット・アロマキャップ・スポンジ以外(吹出口をはめ込む本体側を含む)にアロマオイルが付着した時は、きれいに拭き取ってください。変色・変形・固着の原因になることがあります。(アロマポットにまだアロマオイルが入っている時は吹出口をタンクから取りはずしてから給水などの作業をしてください。)
本体内部までアロマオイルが入ったおそれがある時は、本体内部の水道水を捨てて、タンクキャップや本体内部の振動子と水そう部を洗浄してください。(P11 **日常の点検・手入れ** 参照)
**また、タンク内には絶対にアロマオイルを入れないでください。**
**タンクの変形や破損して水漏れしたり、器具の故障の原因になります。**

**③アロマキャップを閉めて加湿器を運転します。**
●**移動するときは…**
**アロマキャップを閉めてから移動させてください。**
開けたまま移動すると、オイルがこぼれ、変色、変形する原因になることがあります。
●**アロマオイルについて…**
付属のアロマオイルがなくなりましたら、市販されているアロマオイルをお使いください。
●**アロマオイルの香りをかえるときは…**
吹出口を取りはずし、アロマポット内のスポンジを取り除き、食器用中性洗剤で洗ってください。
そのあと洗剤が残らないように水でよくすすいでください。新しいスポンジを使ってください。

### 除菌フィルターの交換方法

**①エアフィルター下部の穴に指を入れ、外側にゆっくり引いてはずします。**
**②古い除菌フィルターをはずし、新しい除菌フィルターと取りかえます。**
**③エアフィルターの上にあるつめ(2本)を本体内に差し込んでからふたを閉めるようにして取り付けます。**
●**除菌フィルターの交換のめやすは約2年です。**
(使用状況、使用環境により異なります。)

# 日常の点検・手入れ

⚠警告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造はしない。
発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

- お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
- 本体ごと水の中につけたり、本体を水洗いしたり、スイッチ部に水をかけたりしないでください。
  ショート・感電のおそれがあります。

**★必ず運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜き、本体が充分冷えてからおこなってください。**
●床などをぬらさないようにタオル、雑巾などを用意してください。
●洗剤を使うときは薄めた台所用中性洗剤をお使いください。アルコール、ベンジン、シンナー、ミガキ粉、塩素系・酸性・アルカリ洗剤、加湿器用洗剤（クエン酸）などは使わないでください。
本体に傷が付いたり、変色や変形することがあります。

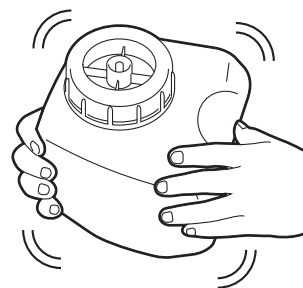
## トップパネル、本体外側（1箇月に1回程度）

ぬるま湯か、薄めた台所用中性洗剤を浸した柔らかい布を、固くしぼって汚れをふき取り、からぶきをしてください。

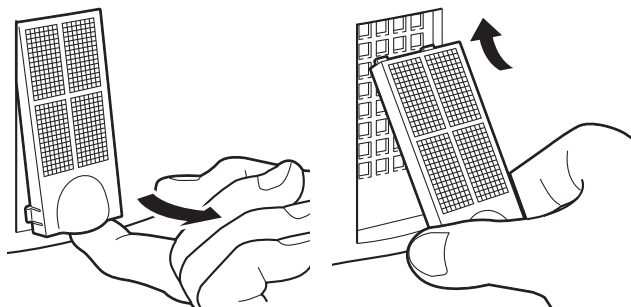
## アロマポットの掃除（1週間に1回程度）

吹出口を取りはずし、食器用洗剤で洗ってください。そのあと洗剤が残らないように水でよくすすいでください。

## タンク内（毎日）

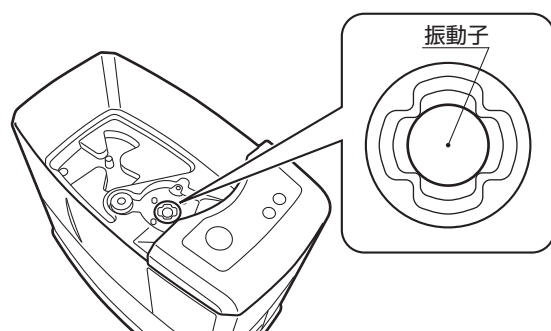
水を入れてキャップを締め、振り洗いをする。
（2～3回）
（7ページ **使用前の準備 1**項参照）

## エアフィルター（1週間に1回程度）

1.エアフィルター下部の穴に指を入れ、外側にゆっくり引いてはずします。
2.付着したほこりを取り除きます。
3.エアフィルターの上にあるつめ（2本）を本体内に差し込んでからふたを閉めるようにして取り付けます。

●汚れが落ちにくいときは、水洗いをしてよく乾かしてから取り付けてください。
●エアフィルターの掃除の際に除菌フィルターが汚れていないか、劣化していないかを確認してください。目安としては2年ほどで交換してください。（寿命は使用状況や環境で異なります。）

お願い　エアフィルターは必ず取り付けてください。本体内部にほこりがたまり、故障の原因になります。

## 振動子、水そう部の中（1箇月に1回程度）

トップパネル、タンク、フードを取り出し、柔かい布でふいてください。特に振動子の表面を傷つけると故障の原因となりますので、タワシや固いスポンジや金属性のブラシなどでこすらないでください。水そう部の内部のよごれが気になるときは綿棒などを用いて掃除をしてください。

**お願い**
●洗剤で洗うと霧の出かたが少なくなりますのでおやめください。

# 修理を依頼される前に

次の表に従ってお調べいただき、必ず電源プラグとコネクタを抜いてから、お買上げの販売店または別紙の お客様相談窓口一覧 にご連絡ください。

| 症　　状 | 調べるところ | 直しかた |
|---|---|---|
| 運転しない。 | 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。 | 電源プラグを確実にコンセントに差し込んでください。 |
| | コネクタがコネクタ差込口（インレット）にしっかり差し込まれていますか。 | コネクタを確実にコネクタ差込口（インレット）に差し込んでください。 |
| | 給水ランプが点滅していませんか。 | タンクに水を入れてください。 |
| 送風は出ているが霧が出てこない。 | 設定湿度が現在湿度の表示値よりも低くなっていませんか。 | 自動運転は加湿のしすぎを防ぐために加湿を停止していることがあります。 |
| 霧の出かたが少ない。 | 水に洗剤や油や薬品などが混入していませんか。 | タンクと本体内の水を捨て、すすいでからきれいな水を入れてください。 |
| | 本体を移動したときなどに、水が水そう内にたくさん入っていませんか。 | 一度本体内の水を捨て、タンクをセットしなおしてください。 |
| | 水温や室温が低く、運転始めではありませんか。 | そのまま20～30分運転すると徐々に霧が多くなります。 |
| 送風が止まらない。 | ―― | 運転を停止しても、本体を冷却するために約1分間送風します。 |
| 部屋の湿度が上がらない。 | 部屋が適用床面積より広すぎませんか。 | ―― |
| | 換気をしていませんか。 | ―― |
| | 床や壁の材質、または換気状態によって異なります。（床がじゅうたんの場合は湿度が上がりにくいことがあります。） | ―― |
| においが出る。 | 本体内側やフードやタンクが汚れていたり、水が古くなったりしていませんか。 | 本体内側やフードやタンクをお手入れしてください。 |

## 異常報知について

製品が異常のときは安全装置がはたらきます。

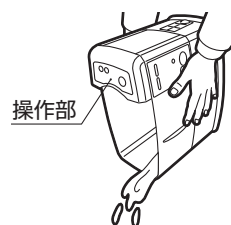
| 症　　状 | 調べるところ（原因） | 直しかた |
|---|---|---|
| 湿度モニターの『乾燥』と『多湿』が同時に点滅している。 | タンクに40℃以上の水を入れていませんか。（サーミスタが異常過熱を検知しました。） | 常温の水をタンクに入れてください。 |
| 湿度設定ができない。 | 設定湿度の『50』が点滅していませんか。（湿度センサーが故障しました。） | お買上げの販売店か別紙のお客様相談窓口一覧にご連絡ください。 |
| | 設定湿度の『連続』が点滅していませんか。（サーミスタが故障しました。） | |
| 設定湿度の『40』と『60』が同時に点滅している | タンクに40℃以上の水を入れていませんか。（ヒーターが異常過熱し、温度ヒューズが切れました。） | お買上げの販売店か別紙のお客様相談窓口一覧にご連絡ください。 |

# 保　管

## 保管のしかた

保管する場合は、10ページ　**日常の点検・手入れ**　をおこなってから、タンク内の水、本体内部の水を排水して、陰乾ししてよく乾燥させてから、高温多湿の場所をさけて保管してください。

●本体内部の排水は、トップパネル、タンク、フードを取りはずし、操作部側が必ず上になるように傾けて排水してください。

# 仕　様

| 項目 | | 仕様 |
|---|---|---|
| 型式の名称 | | THV－A41 |
| 種類 | | 加熱超音波式 |
| 使用水 | | 水道水 |
| 製品能力 | 加湿能力 | 強 約0.4L/h・弱 約0.2L/h |
| | 連続加湿時間 | 約7.5～20時間 |
| | 適用床面積の目安 | 木造和室11㎡（7畳）　プレハブ洋室18㎡（11畳） |
| | タンク容量 | 約3L |
| 自動湿度調節 | | あり |
| 電気特性 | 電源 | 単相100V　50/60Hz |
| | 定格消費電力 | 100W |
| | 保護装置 | 渇水時停止フロートスイッチ、転倒スイッチ |
| 電源コード | | 約1.4m |
| 外形寸法 | | 幅337×奥行185×高さ300㎜ |
| 質量（水を除く） | | 約3.5kg |
| 附属品 | | アロマオイル、スポイト |

# 保証とアフターサービス

**●この製品には保証書がついています。**

保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、所定事項の記入および記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

**●保証期間はお買上げ日から１年間です。**

なお、保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

**●保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。**

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により修理いたします。費用など詳しいことはお買い求めの販売店にご相談ください。

当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

**●加湿器の補修用性能部品の保有期間は、製造打切後６年です。**

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

**使用中に異常が生じたときは、直ちに運転を停止し、電源プラグを抜き、お買上げの販売店に修理を依頼してください。アフターサービスをお申しつけいただくときは、右のことをお知らせください。**

**型　　式……THV－A41**
**故障状態……できるだけ詳しく**
**ご氏名・ご住所・お電話番号**

**●アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合、お買上げの販売店または別紙の お客様相談窓口一覧 にご相談ください。**

**●ご贈答、ご転居により、お買上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、別紙の お客様相談窓口一覧 にご相談ください。**

TOYOTOMI

# トヨトミ 加熱超音波式ハイブリッド加湿器 保証書

| 型　　式 | | THV-A41 | |
|---|---|---|---|
| ※ 保 証 期 間 | | お買い求め日より１年間 | お買い求め日　　　年　　　月 |
| ※<br>お 客 様 | ご住所<br>ご芳名 | 〒　　　　　　　　TEL | |
| ※<br>販 売 店 | 住　所<br>氏　名 | 〒　　　　　　　　TEL<br>印 またはサイン | |

（※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は無効となりますから必ずご確認ください。）

本保証書は、本書記載の内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。

株式会社 トヨトミ

〒467-0855　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号　TEL.052-822-1144

## 無 料 修 理 規 定

1.　お買い求め日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき、当社が無料修理いたします。
2.　無料修理をお受けになる場合は、本書あるいは購入日・支払いを証明するものをご提示のうえ、お買い求めの販売店または当社にご依頼ください。
3.　ご転居・ご贈答品等で、本書に記入してあるお買い求めの販売店に修理がご依頼できない場合には、当社へお問い合わせください。
4.　保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。
　イ.　使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
　ロ.　お買い求め後の落下・転倒・衝撃・輸送等による故障及び損傷。
　ハ,　火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害や異常電圧などによる故障及び損傷。
　ニ.　居室用加湿以外（例えば、温室や業務用の使用、車両・船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
　ホ.　本書の提示がない場合。
　ヘ.　本書にお買い求め年月日･お客様名･販売店名の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合。通信販売等で購入され、それを証明する商品の送り状･支払明細書の提示がない場合。ネット販売等を利用した個人売買品や譲渡品、中古品（再生品）の修理。
5.　本書は日本国内においてのみ有効です。
6.　本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

● この保証書は、本書に明示した期間、条件の下において無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等について、ご不明な場合は、お買い求めの販売店または当社にお問い合わせください。
● 保証期間経過後の修理等について、詳しくは「保証とアフターサービス」の項をご覧ください。
● お客様の個人情報は、当社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

| 修　理　メ　モ | |
|---|---|
| 年 月 日 | |
| 修理内容 | |
| 担 当 者 | |


株式会社 トヨトミ

ホームページ　http://www.toyotomi.jp

本　　社　〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町５番17号
フリーコール　0120-104-154
TEL　〈052〉822-1144
FAX　〈052〉822-2742


C-Ⓑ